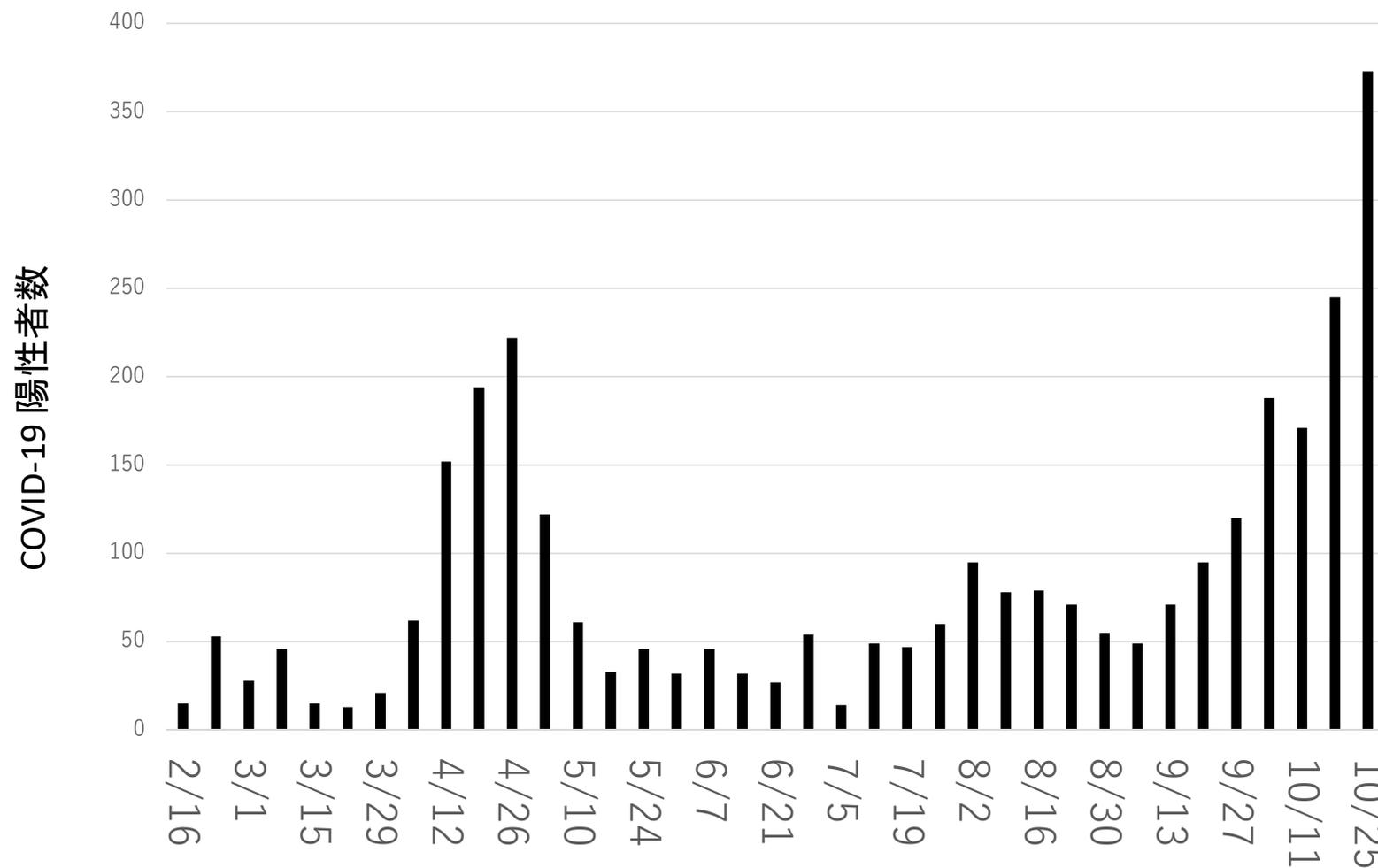


# 医科レセプトを用いた 医療サービス提供の変化

以下の分析は藤森研司教授(東北大学 大学院 医学系研究科・公共健康医学講座・医療管理学分野)によるもの

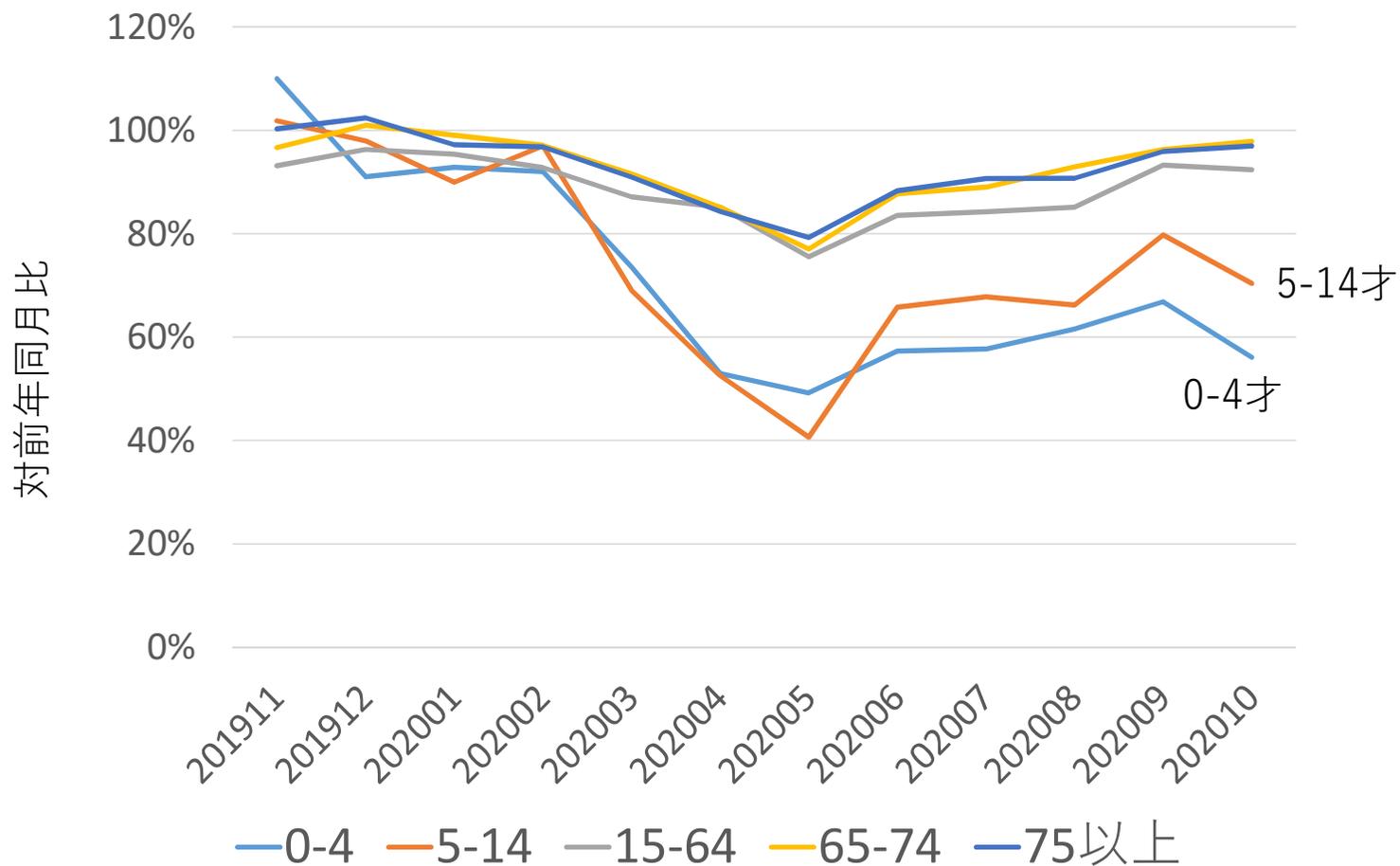
出典： 社会保険旬報 No.2809:30-34 (2021)

## 北海道のCOVID-19陽性者数



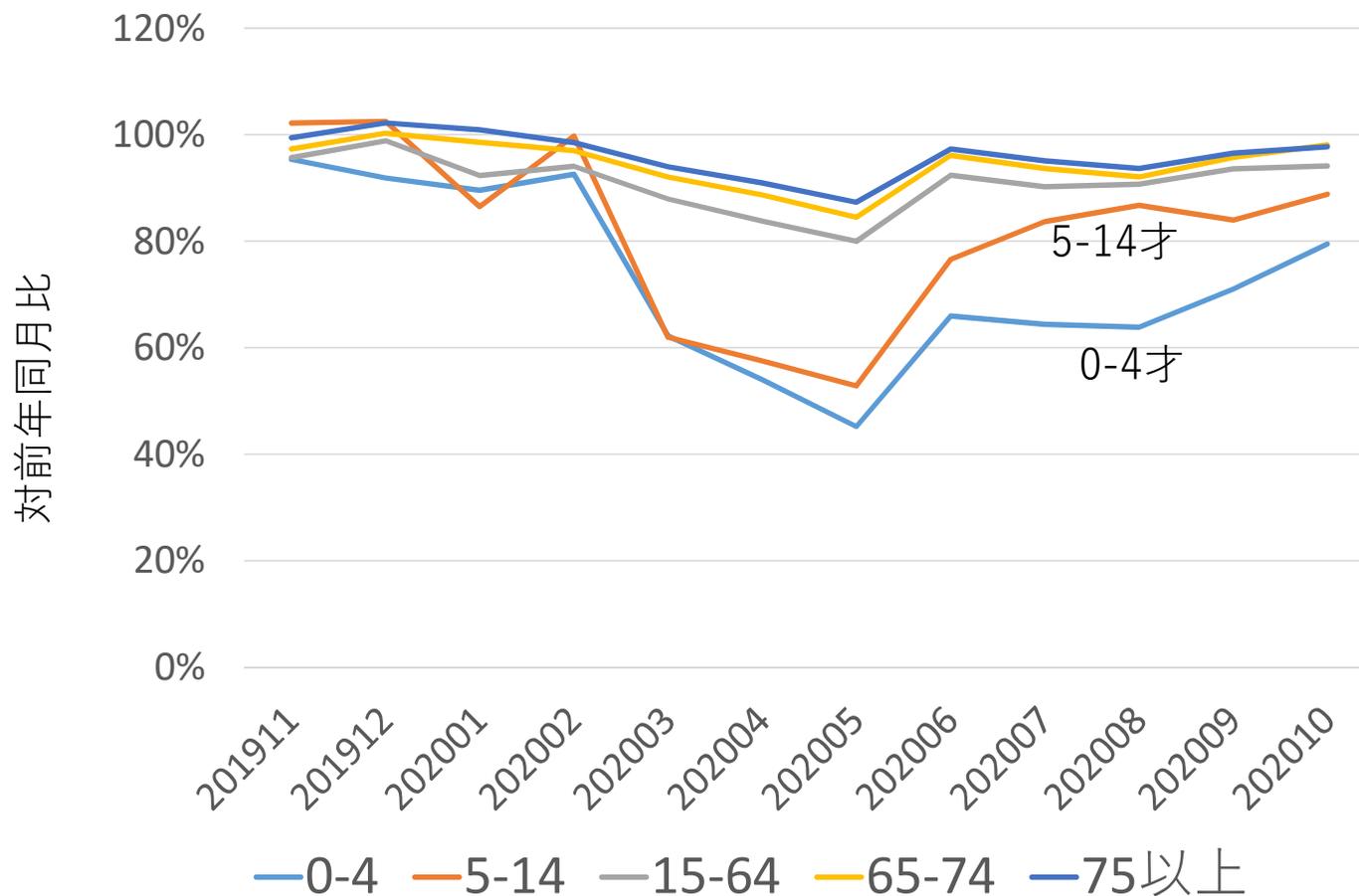
資料： 東北大学 藤森研司 (2021)

年齢区分別の入院レセプト件数の対前年同月比



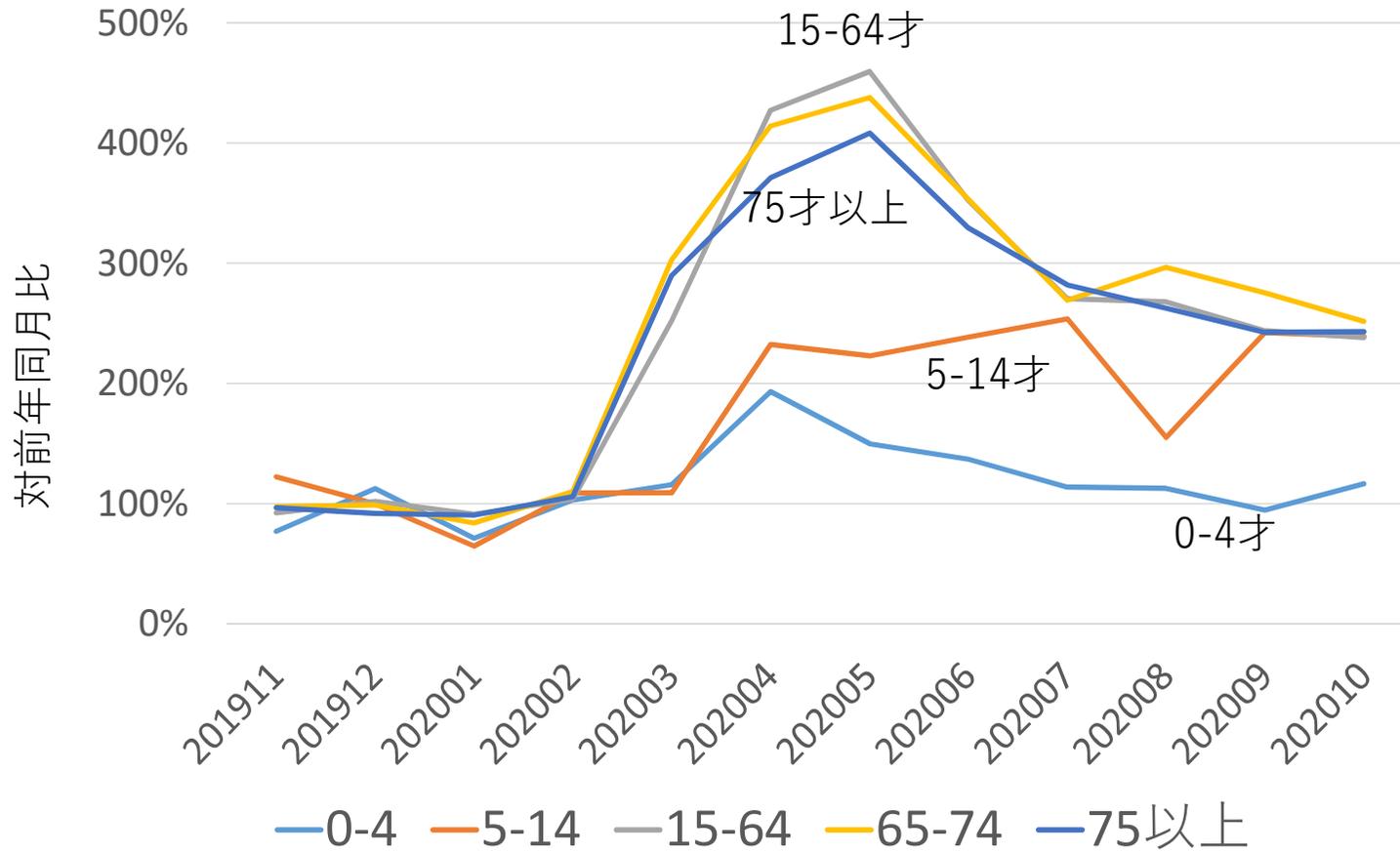
資料： 東北大学 藤森研司 (2021)

年齢区分別の外来レセプト件数の対前年同月比



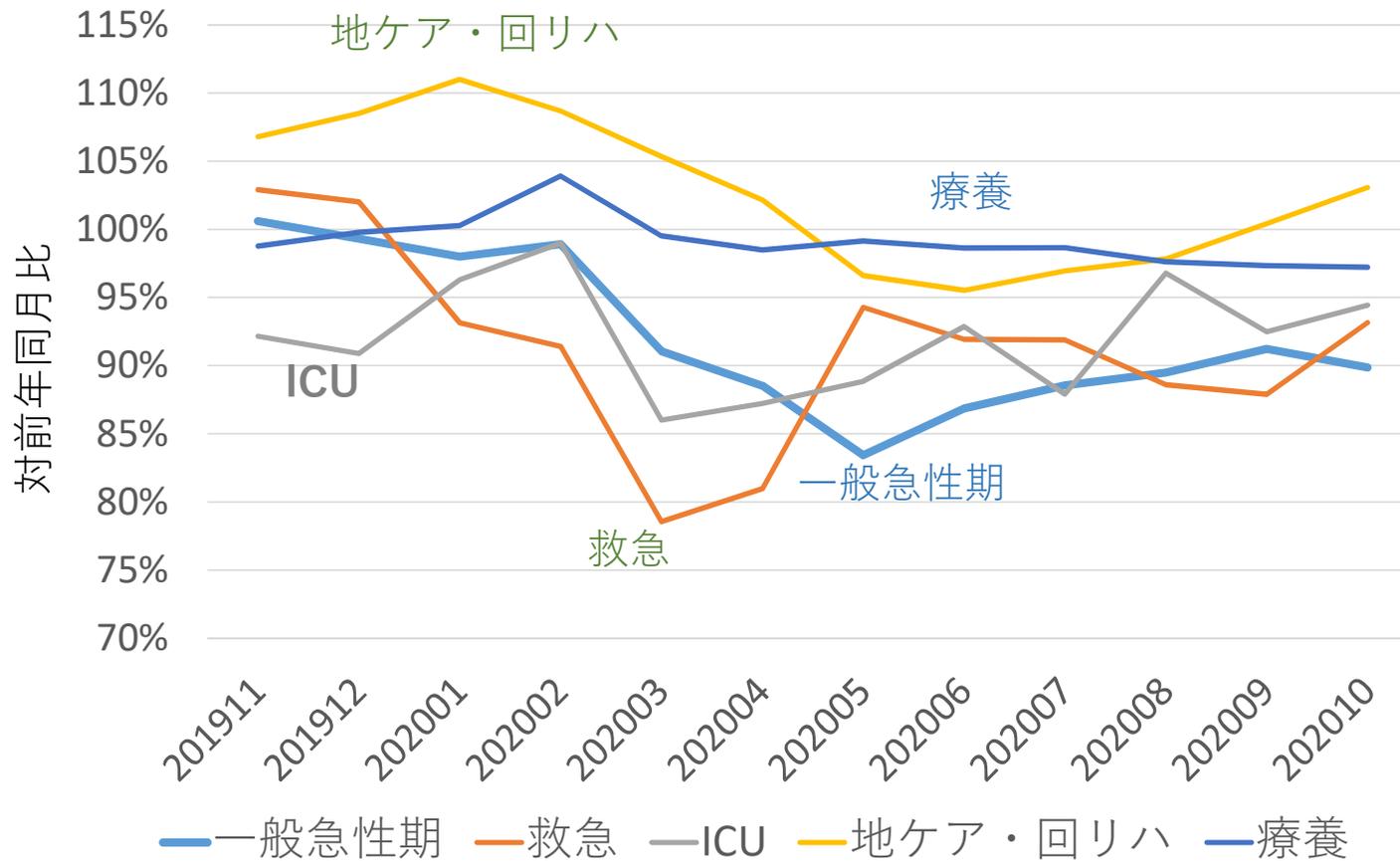
資料： 東北大学 藤森研司 (2021)

年齢区分別の電話再診の対前年同月比



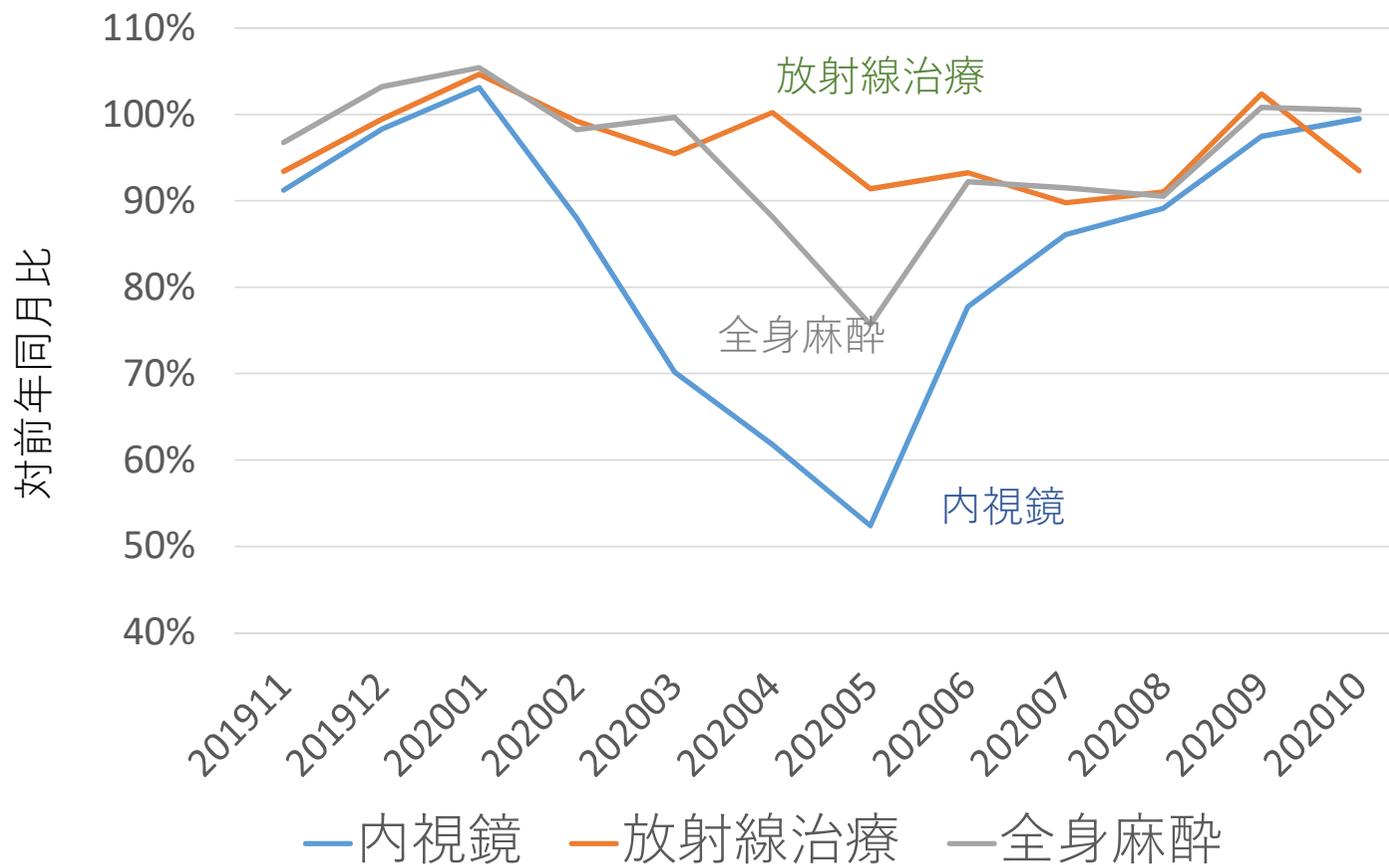
資料： 東北大学 藤森研司 (2021)

病棟種別によるレセプト件数の対前年同月比



資料： 東北大学 藤森研司 (2021)

## 急性期の医療行為のレセプト件数の対前年同月比



資料： 東北大学 藤森研司 (2021)

## 2020年5月のMDC別 DPCレセプト数の対前年同月比

MDC	対同月前年比	MDC	対同月前年比
01 脳神経系	82.5%	10 内分泌系	75.2%
02 眼科系	51.5%	11 泌尿器科系	88.4%
03 耳鼻科系	63.5%	12 婦人科系	73.7%
04 呼吸器系	73.0%	13 血液疾患	103.7%
05 循環器系	76.0%	14 新生児系	93.7%
06 消化器系	78.9%	15 小児科系	52.4%
07 筋骨格系	75.6%	16 外傷等	82.5%
08 皮膚科系	63.1%	17 精神系	50.0%
09 乳腺系	80.8%	18 その他	92.5%

資料： 東北大学 藤森研司（2021）

## 以上の分析のまとめ

- 待てる「急性期」の診療の落ち込みが大きい。
  - 手技では内視鏡など
  - 診療科別では、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、小児科、精神科。
    - 小児科に関しては感染対策強化の影響も大きいと考えられる。呼吸器系も減少している。
  - 血液の悪性腫瘍など、必要性の高い診療の量は低下していない。
- 電話による診療などオンライン診療が増加した。

**レセプトデータをRapid Info的に用いることで、対策のための有用な知見が得られる。  
HER-SYS、G-MISと組み合わせて多層的な分析体制を構築すべきでは？**